

I 調査の概要

1 調査目的

本調査は県民の価値観や行動志向、行政への評価・要望など、県民生活の基本的な意識の経年変化を大きな潮流として捉えることにより、政策形成、施策運営の基礎資料を得ることを目的としている。

今回は、年次テーマを「ひょうごの環境について」とした。県では、県民の環境に対する意識や環境の保全・創造等に係る取り組みの現況などを把握し、「新兵庫県環境基本計画」の改定の検討とともに、地球温暖化の防止対策や環境学習・教育等の施策をより効果的に推進するために活用する。

2 調査設計

- (1) 調査地域 兵庫県全域
- (2) 調査対象 県内に居住する満20歳以上の男女個人
- (3) 標本数 5,000人
- (4) 調査方法 郵送法(ハガキによる督促1回)
- (5) 調査時期 平成19年10月24日～11月12日
- (6) 県民意識調査懇談会

設問の作成にあたり、県民意識調査懇談会を設置して、下記の学識経験者から指導・助言を得た。

北浦 かほる (帝塚山大学 教授)
越川 正三 (関西大学 名誉教授)
竹内 恵子 (生活協同組合コープこうべ 理事)
立木 茂雄 (同志社大学 教授)
鳥越 皓之 (早稲田大学 教授)
中瀬 勲 (兵庫県立大学 教授)
新澤 秀則 (兵庫県立大学 教授)
吉田 三千代 (株サンケイリビング新聞社 情報企画部長) [五十音順]

3 回収結果

回収数 2922件(回収率58.4%)

地域	標本数	回収数	回収率	無効票	有効回答
神戸	500	242	48.4%	2	240
阪神南	500	250	50.0%	0	250
阪神北	500	298	59.6%	3	295
東播磨	500	287	57.4%	3	284
北播磨	500	292	58.4%	5	287
中播磨	500	278	55.6%	2	276
西播磨	500	318	63.6%	2	316
但馬	500	332	66.4%	6	326
丹波	500	329	65.8%	3	326
淡路	500	293	58.6%	5	288
地域不明	-	3	-	3	0
全県	5000	2922	58.4%	34	2888

※無効票は地域不明、集計後到着など

4 標本抽出および集計方法

- (1) 母集団 選挙人名簿登録者数(平成19年9月2日現在)に、外国人登録者数から推計した外国人県民(成人)数を加えたものを母集団とした。
- (2) 標本配分 地域ごとに500の標本数を都市規模別母集団構成比に応じて配分(合計5000人)した。
なお、外国人県民については、市区町ごとに、母集団(日本人+外国人県民)における外国人県民比率を計算し、各市区町の合計標本数(日本人+外国人県民)に、外国人県民比率を乗じ、外国人標本数を算出した。
- (3) 抽出方法 層化2段無作為抽出法
 - ・ 第一次抽出地点として、平成17年国勢調査時に設定された調査区を使用した。
 - ・ 各層で、1地点内の標本数が10前後となるよう地点数を決定し、等間隔抽出法により調査地点を抽出した。
 - ・ 各地点における対象者の抽出は、住民基本台帳(一部の市町は選挙人名簿)から等間隔抽出法で抽出した。
 - ・ 外国人県民については、市区町ごとに外国人録名簿等から無作為抽出した。
- (4) 集計方法 地域ごとの回収数について、全県内の母集団構成比を復元するよう重み付け集計をした。
- (5) 地域区分



県民局	該当市町
神戸	神戸市
阪神南	尼崎市、西宮市、芦屋市
阪神北	伊丹市、宝塚市、川西市、三田市、猪名川町
東播磨	明石市、加古川市、高砂市、稲美町、播磨町
北播磨	西脇市、三木市、小野市、加西市、加東市、多可町
中播磨	姫路市、神河町、市川町、福崎町
西播磨	相生市、たつの市、赤穂市、宍粟市、太子町、上郡町、佐用町
但馬	豊岡市、養父市、朝来市、香美町、新温泉町
丹波	篠山市、丹波市
淡路	洲本市、南あわじ市、淡路市

5 回答者のプロフィール

○性別 (%)

	男性	女性	不明
全県	44.5	54.1	1.4
神戸	48.7	49.6	1.6
阪神南	41.2	56.9	2.1
阪神北	41.1	58.6	0.3
東播磨	42.7	56.7	0.8
北播磨	49.7	49.0	1.3
中播磨	46.4	52.5	1.0
西播磨	41.4	56.6	2.1
但馬	45.5	52.5	2.0
丹波	43.3	55.0	1.7
淡路	36.3	60.0	2.5

○年齢 (%)

	20～24歳	25～29歳	30～34歳	35～39歳	40～44歳	45～49歳	50～54歳
全県	3.5	4.8	7.7	7.9	9.1	8.1	8.2
神戸	2.5	5.8	7.5	6.6	7.9	10.0	5.4
阪神南	3.6	2.1	7.5	9.6	14.5	8.5	10.4
阪神北	3.8	5.2	7.1	10.6	7.9	5.4	7.9
東播磨	5.8	5.8	10.7	8.8	8.8	6.6	10.7
北播磨	2.7	2.7	4.7	7.4	4.7	8.7	10.7
中播磨	3.7	6.4	8.5	5.4	9.8	8.8	6.1
西播磨	3.4	5.5	7.6	6.2	7.6	6.9	11.0
但馬	4.0	6.1	6.1	8.1	5.1	7.1	9.1
丹波	5.0	5.0	5.0	5.0	3.3	3.3	10.0
淡路	3.8	3.8	6.3	7.5	8.8	7.5	8.8

	55～59歳	60～64歳	65～69歳	70～74歳	75～79歳	80歳以上	不明
全県	11.8	10.9	8.9	7.9	5.4	4.6	1.3
神戸	12.0	9.2	8.3	10.0	6.3	6.6	1.6
阪神南	12.1	10.4	7.5	3.6	6.0	3.2	1.1
阪神北	12.0	13.9	10.1	8.7	4.1	3.0	0.5
東播磨	10.7	11.5	7.4	7.1	3.6	2.5	0.8
北播磨	10.7	10.1	12.1	10.7	6.7	7.4	1.3
中播磨	10.8	14.6	10.5	7.1	3.4	3.7	1.4
西播磨	13.1	7.6	9.7	9.0	5.5	4.1	2.1
但馬	13.1	10.1	8.1	7.1	7.1	8.1	1.0
丹波	13.3	11.7	10.0	11.7	8.3	6.7	1.7
淡路	13.8	10.0	8.8	7.5	7.5	3.8	2.5

○年齢[再掲] (%)

	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80歳以上	不明
全県	8.4	15.5	17.1	20.0	19.8	13.3	4.6	1.3
神戸	8.3	14.2	17.9	17.4	17.4	16.2	6.6	1.6
阪神南	5.6	17.1	22.8	22.4	18.1	9.6	3.2	1.1
阪神北	8.7	17.7	13.4	19.6	24.0	12.8	3.0	0.5
東播磨	11.2	19.5	15.6	21.1	18.9	10.7	2.5	0.8
北播磨	5.4	12.1	13.4	20.8	21.5	17.4	7.4	1.3
中播磨	10.2	13.9	18.6	16.9	25.1	10.5	3.7	1.4
西播磨	9.0	13.8	14.5	24.8	17.2	14.5	4.1	2.1
但馬	10.1	14.1	12.1	22.2	18.2	14.1	8.1	1.0
丹波	10.0	10.0	8.3	21.7	23.3	20.0	6.7	1.7
淡路	7.5	13.8	16.3	21.3	20.0	15.0	3.8	2.5

○職業 (%)

	自営業主			家族従業者		
	農林漁業 (自営業主)	商工、 サービス業 (自営業主)	自由業 (自営業主)	農林漁業 (家族従業者)	商工、 サービス業 (家族従業者)	自由業 (家族従業者)
全県	1.2	4.9	1.7	0.4	2.0	0.5
神戸	0.0	4.6	2.5	0.4	2.1	0.4
阪神南	0.4	4.3	1.1	0.0	1.7	0.8
阪神北	0.3	5.2	2.5	0.3	1.4	0.0
東播磨	1.4	2.7	1.4	0.0	1.6	0.3
北播磨	4.7	7.4	2.0	1.3	2.0	0.7
中播磨	0.3	5.8	0.7	0.0	1.4	0.7
西播磨	2.8	5.5	1.4	0.0	4.1	0.7
但馬	5.1	6.1	1.0	2.0	3.0	2.0
丹波	10.0	6.7	1.7	1.7	1.7	0.0
淡路	5.0	6.3	1.3	2.5	3.8	0.0

	つとめ人				その他			
	管理職	専門・ 技術職	事務的な 仕事	現業的な 仕事	主婦	学生	その他の 無職	不明
全県	6.0	8.1	11.8	13.4	27.7	1.6	18.6	2.2
神戸	7.0	9.2	11.3	11.7	24.6	1.6	22.5	2.1
阪神南	7.5	10.0	13.2	11.3	29.2	2.1	14.5	4.0
阪神北	7.1	9.3	9.8	10.9	32.4	1.4	19.1	0.5
東播磨	4.1	6.6	13.7	18.4	32.1	1.6	14.8	0.8
北播磨	4.0	4.0	11.4	14.8	23.5	2.0	21.5	1.3
中播磨	5.4	8.1	11.9	14.9	28.1	0.7	19.7	2.0
西播磨	2.8	5.5	11.0	16.6	26.2	1.4	20.0	2.1
但馬	3.0	6.1	12.1	17.2	20.2	1.0	18.2	4.0
丹波	3.3	6.7	10.0	13.3	23.3	1.7	16.7	3.3
淡路	2.5	3.8	11.3	15.0	26.3	1.3	16.3	3.8

○世帯構成 (%)

	1人世帯	夫婦だけ (1世代)	親と子ども (2世代)	親と子と孫 (3世代)	その他	不明
全県	9.2	22.7	55.3	10.0	1.7	1.0
神戸	12.9	24.2	53.7	7.0	1.3	0.9
阪神南	9.2	17.1	64.4	6.4	1.7	1.1
阪神北	9.3	27.5	53.1	7.4	1.9	0.5
東播磨	6.3	22.5	61.6	7.4	1.4	0.8
北播磨	5.4	22.1	49.7	20.8	2.0	0.7
中播磨	6.4	25.8	53.9	10.2	2.0	1.4
西播磨	7.6	18.6	46.2	22.8	2.8	2.1
但馬	7.1	24.2	46.5	19.2	2.0	2.0
丹波	8.3	20.0	40.0	25.0	3.3	1.7
淡路	11.3	20.0	46.3	21.3	0.0	1.3

○家族構成 (%)

	乳児がいる世帯	幼児がいる世帯	小学生がいる世帯	中学生がいる世帯	高校生がいる世帯	65歳以上の人がいる世帯	あてはまる人はいない	不明
全県	2.0	11.4	14.2	8.6	9.1	45.8	28.4	2.1
神戸	1.6	9.2	12.0	8.3	8.3	45.8	28.4	2.1
阪神南	1.7	13.9	16.8	7.2	8.1	36.9	30.5	1.7
阪神北	2.5	10.9	13.6	8.4	9.3	42.8	34.6	1.4
東播磨	2.5	14.5	11.2	7.4	9.6	37.3	32.9	2.7
北播磨	3.4	11.4	14.1	10.7	13.4	67.1	17.4	1.3
中播磨	2.0	10.2	18.6	10.5	9.8	46.1	27.5	3.1
西播磨	1.4	11.7	17.2	11.0	9.7	56.6	20.7	3.4
但馬	3.0	11.1	12.1	9.1	11.1	63.6	21.2	2.0
丹波	1.7	11.7	16.7	8.3	6.7	70.0	16.7	1.7
淡路	1.3	8.8	15.0	11.3	10.0	58.8	21.3	3.8

○居住年数 (%)

	1年未満	1年以上3年未満	3年以上5年未満	5年以上10年未満	10年以上15年未満	15年以上20年未満	20年以上	不明
全県	3.2	6.4	6.8	11.7	12.6	8.4	49.8	1.1
神戸	4.1	7.0	7.0	10.8	12.9	10.0	46.7	1.3
阪神南	2.1	8.1	10.4	17.7	14.5	6.8	39.5	1.1
阪神北	1.9	6.8	6.8	16.6	17.7	9.3	40.6	0.3
東播磨	3.8	6.3	5.8	10.7	14.0	10.7	48.2	0.8
北播磨	2.7	4.7	2.7	6.0	6.7	6.7	69.8	0.7
中播磨	5.8	7.5	6.1	6.4	10.5	7.1	54.6	1.4
西播磨	1.4	2.1	4.1	9.7	7.6	4.8	67.6	2.8
但馬	1.0	3.0	4.0	7.1	6.1	9.1	68.7	1.0
丹波	1.7	3.3	3.3	5.0	5.0	8.3	73.3	1.7
淡路	1.3	2.5	3.8	7.5	10.0	5.0	68.8	1.3

○未既婚 (%)

	既婚 (配偶者あり)	既婚 (離別・死別)	未婚	不明
全県	70.8	12.4	15.2	1.6
神戸	67.5	14.6	16.7	1.3
阪神南	71.6	10.4	15.6	2.4
阪神北	71.1	13.4	14.7	1.1
東播磨	72.6	9.6	17.0	1.1
北播磨	75.2	10.7	10.7	3.4
中播磨	74.9	10.8	12.9	1.0
西播磨	69.0	14.5	13.8	2.8
但馬	70.7	13.1	15.2	2.0
丹波	71.7	11.7	13.3	3.3
淡路	67.5	17.5	12.5	2.5

6 標本誤差

世論調査で無作為抽出法をとった場合は、数学的に標本誤差を計算することが可能であり、誤差の幅はサンプル数と得られた結果の比率などによって異なる。

今回の調査のサンプル数についての標本誤差の幅は、以下のとおりである。

誤差の算出式

(層化二段抽出、信頼度95%の場合)

$$\text{標本誤差} = \pm 2 \sqrt{2 \frac{N-n}{N-1} \times \frac{P(100-P)}{n}}$$

N:母集団 n:回答者総数 P:回答比率(%)

〈例:母集団4,620,239、回答者総数2,888の場合〉

回答比率	10%	20%	30%	40%	50%
(%)	(または90%)	(または80%)	(または70%)	(または60%)	
誤差(%)	±1.58	±2.10	±2.41	±2.58	±2.63

II 調査結果のまとめ

1 環境への意識について

- 住居周辺の環境について、『満足』(「満足」+「やや満足」)が最も多いのは「身近な自然とのふれあい」(61.8%)で6割を超える。一方、「川・池・海などのきれいさ」では『不満』(「満足」+「やや満足」 36.5%)が『満足』(34.2%)を上回る
- 特に関心のある環境問題は、「地球温暖化」(80.9%)が8割と群を抜く。「海洋や大気汚染」(26.1%)、「オゾン層の破壊」(24.5%)、「黄砂や酸性雨などの影響」(23.5%)が2割台で続く

2 地球温暖化について

- 地球温暖化による影響に対する不安は、「大雨や台風など異常気象の増加」(85.9%)が8割を超えて最も多く、「農産物や海産物の収穫の変化」(66.9%)が6割台で続く。「海面の上昇」(44.0%)など他の4項目も4割前後が不安を感じている
- 地球温暖化防止の重要な対策は、「太陽光や風力など新エネルギーの開発や普及」(47.2%)が4割を超えて最も多く、「森林や緑地の保全や整備」(34.2%)、「環境問題に対する国際的な協力」(30.6%)が3割台で続く

3 個人の取組状況について

- 暮らしの中での環境に配慮した工夫や努力について、「現在している」ことでは、「新聞紙、雑誌などを分別してリサイクル業者に出す」(80.5%)が8割と最も多く、「洗顔、歯磨き、食器洗い のときに、水を流しっぱなしにしない」(76.3%)が7割台で続く
- 「これからしたい」ことでは、「太陽エネルギーや太陽熱を利用する」(61.2%)が6割を超えて最も多く、「生ゴミ処理機を使用する」(56.8%)、「雨水を溜めて散水や防火用などに使用する」(56.0%)が5割台半ばで続く
- 「現在している」と「これからしたい」を足し合わせると、「洗顔、歯磨き、食器洗い のときに、水を流しっぱなしにしない」(94.2%)、「テレビをつけっぱなしにしない」(91.8%)、「新聞紙、雑誌などを分別してリサイクル業者に出す」(91.5%)が9割を超える。一方、「生ゴミ処理機を使用する」(63.4%)、「雨水を溜めて散水や防火用などに使用する」(65.6%)、「低公害車を利用する」(69.3%)、「太陽エネルギーや太陽熱を利用する」(69.4%)は6割台にとどまる

4 地域での取組状況について

- 住んでいる地域の地域活動の状況は、「活発に行なわれている」(27.3%)が3割弱、「少しは行なわれている」(47.2%)が5割弱で、両者を合わせた『行われている』(74.5%)は約4分の3になる。「わからない」(16.1%)が1割台半ばある
- 環境をよりよくする活動への参加状況は、4人に1人が「既に参加している」(25.1%)とし、「参加したいと思う」(41.7%)を合わせると3分の2になる。「わからない」(23.5%)とする回答が2割を超える
- 「既に参加している」又は「参加したいと思う」活動の内容は、「マイバッグ持参など環境にやさしい買物運動」(60.1%)が6割で最も多く、「地域の美化・緑化活動」(56.9%)、「古紙・牛乳パックなどの回収活動」(49.1%)の順で続く
- 環境をよりよくする活動への参加のきっかけは、「地域での熱心な取り組み」(44.4%)が4割を超えて最も多く、「県や市町の広報」(32.3%)、「新聞やテレビなどマスコミでの報道」(31.8%)が3割台で続く

5 環境学習への関心について

- 環境学習で重視することは、「環境問題をわかりやすく理解できること」(34.5%)が3割台で最も多く、「活動を実践している人達の取り組みを知ること」(25.0%)、「大人や子ども、地域団体などが交流できること」(23.5%)、「海や川、里山などで活動し、自然を体験すること」(20.0%)が2割台で続く
- 環境学習の推進で重要なことは、「学校や幼稚園・保育所における学習機会の充実」(39.4%)が約4割と最も多く、「住民やNPO、学校、事業者、市町などの連携の強化」(31.7%)、「情報提供や相談体制の充実」(29.3%)が3割前後で続く

6 事業者に見る取り組みについて

- 環境保全のために事業者に見ることは、「環境にやさしい技術や製品の開発」(45.8%)が4割台半ばと最も多く、「廃棄物の削減やリサイクルの促進」(41.4%)、「大気や水の汚染、騒音などの低減」(37.2%)、「省エネルギー化や省資源化」(26.8%)の順で続く

7 経済的負担や生活のあり方について

- 環境保全のための経済的負担のあり方は、「ある程度の負担が必要」(59.6%)が約6割と最も多く、「積極的な負担が必要」(15.3%)と合わせた『経済的負担が必要』(74.9%)は約4分の3になる。他方、「負担を負う必要はない」(8.0%)は1割に満たず、「わからない」(11.5%)の方が多い
- 将来により環境を残すための生活のあり方は、「生活が少しくらい不便になる程度なら環境をよくすることを大切にしたい」(61.3%)が6割と最も多く、「生活がたいへん不便になっても、環境をよくすることを大切にしたい」(6.7%)と合わせた『生活が不便になっても環境をよくすることを大切にしたい』(68.0%)は7割近い。一方、「便利な生活と環境の保全は両立できると思う」(25.9%)が4分の1ある

8 暮らし向きに対する意識

- 今の生活が「向上している」(7.0%)は、前年調査(10.7%)より3.7ポイント減少し、1割を下回る。「低下している」(29.7%)は、前年調査(20.7%)より9.0ポイント増加し、約3割
- 『満足』(44.3%)は前年度(51.8%)より7.5ポイント減少し、過去最低の平成15年に並ぶ。『不満』(35.0%)は、平成15年(46.6%)から3年連続減少していたが、前年度(29.2%)より5.8ポイント増加

9 震災に対する意識

- 今後10年くらいの中に大地震が『起こると思う』(47.8%)が『起こらないと思う』(28.0%)を約20ポイント上回る
- 『起こると思う』は、前年調査(37.4%)より10.4ポイント増加し、過去最高の平成16年(48.9%)に次ぐ水準。『起こらないと思う』は前年度(31.6%)より3.6ポイント減少し、過去最低となっている

10 県政への意識

- 『関心がある』(「大変関心がある」+「多少関心がある」72.0%)は、前年調査(65.0%)より7ポイント増加し、7割強。『関心がない』(「ほとんど関心がない」+「全く関心がない」26.5%)は、前年調査(32.1%)より5.6ポイント減少し、2割台半ば
- 県政への評価は、「震災からの復興対策」、「交通網の整備」、「防災対策の充実」、「県政の広報・広聴活動」等で評価が高いが、「病気の予防や医療施設の充実」、「雇用の安定と職業能力の開発」、「福祉対策」、「学校教育の充実」等では努力が必要としている